

・アレルギー性鼻炎（花粉症、通年性アレルギー）、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎の手術療法について

i) 下鼻甲介粘膜レーザー焼灼術（局所麻酔、日帰り）

花粉症では花粉飛散開始前に行うのが望ましいです。

間をあけて数回行う場合もありますが、当院は基本的には1回のみ行います。

鼻閉に対しては約8～9割程度、鼻汁・くしゃみは約6割程度くらい改善するといわれています。

効果の持続期間は個人差が大きいです、1～4年ぐらいです。

重度の鼻中隔彎曲症がある場合は焼灼困難なことがありますので、鼻中隔矯正術が必要になります。



ii) 鼻中隔矯正術

鼻中隔彎曲により鼻腔内がせまくなり、鼻閉がある場合施行します。

外鼻の発育とも関連するので、15～16歳以上の患者さんなら行えます。当院では内視鏡を利用し、主に全身麻酔で行います。入院期間は患者さんの希望にもよりますが、だいたい4日～8日間です。

iii) 粘膜下下鼻甲介切除術

鼻閉に対して施行します。

主に鼻中隔矯正術と同時に行い、鼻閉に対する術後3年の有効率は9割以上です。

下鼻甲介の骨を除去します。また余分な粘膜も除去する場合があります。当院では内視鏡を利用し、主に全身麻酔で行います。入院期間は患者さんの希望にもよりますが、だいたい4日～8日間です。

iv) 後鼻神経切断術

鼻汁・くしゃみに対して施行します。

主に鼻中隔矯正術、粘膜下下鼻甲介切除術と同時に行い、鼻汁・くしゃみに対する術後の有効率は8～9割程度といわれています。当院では内視鏡を利用し、主に全身麻酔で行います。入院期間は患者さんの希望にもよりますが、だいたい4日～8日間です。